

九月のサッカーJリーグで、守備を放棄し相手にゴールを献上する珍事があった。本来はプレー再開後、相手チームにボールを渡すべきところ、味方がボールを奪ってゴールしたことが「紳士協定」に反した得点だと抗議を受け、監督の指示で勝ち越し点を故意に決めさせたのだ。ルール上は全く問題ないが、フェアプレーの精神にのっとり、正義を体現した結果であるといえよう。一方、世の中では大義のために嘘がまかりとおる職業が存在する。

その代表例が政治家だ。首相が国会解散時期について嘘をついてよいとされるのは、結果としての解散が事実として明らかになるからだ。一方で、首相が国会で虚偽答弁をすることは許されない。しかし、実際はあったことを全否定した積極的な嘘にはじまり、はげらかして答えないことで、結果的に事実と異なる消極的な嘘も数多く見られる。

旧統一教会(世界平和統一家庭連合)との関係について、自民党は所属国会議員向けの「点検」作業の結果、個人的つながりの一端をよつやく認めつつある。ただ、公表は一部に限られ、元首相や議長が対象外になるなど、透明性に欠ける状況に変わりはない。強いつながりの根底にあるとされる、求める大義の共通性は残ったまま。長年の関係を断ち切られる教会側は不義と感じるだろう。

職業上の嘘と大義

専修大学教授 山田 健太

の説明はない。この間、報じられた過去の行状を最初は否定・黙秘し、その後は事実上追認するものの、「覚えていない」「関係団体とは知らなかった」との言い訳で追及をかわし、「今後は関係を持たない」との党方針にかけられ、嵐が通り過ぎるのを待つ姿勢を示す議員も多い。

あったことをなかつたかみせるのは、政府・自民党の常套手段ではある。その際、因果関係などが不明のものを「関係なし」や「証拠不十分」として、自分都合で印象操作することが少なくない。国葬についても、出された疑問に「未確定」「不明」とすることで、国の用意という大義に傷がつかないようにシロのイメージを作り出すことに熱心だ。

職務上の嘘が許容されているものには、警察などの捜査・諜報活動がある。身分を隠しての活動が一定の範囲で許容されるのは、それによる犯人逮捕や犯罪の未然防止という正義の実現があるからだ。ジャーナリストも潜入取材が条件付きで許容されるなど、情報を得るためには嘘が許されてきた職業だ。もちろん報道によって結果を明らかにすることが前提で、それが市民の知る権利につながるという正義があるからだ。

政治家の嘘はひとえに、よい政治を実現するためという独り善がりの正義と、国家の大義のためには嘘が許されるという特権意識からではないか。選挙に勝つためなら何でも許されるというのも同根だ。記者に対しては、こうした勘違いが既に厳しい批判にさらされている。一方、政治の世界では誤った大義の実行が、東京五輪や国葬などあたりで噴き出している。政治家自身が判断できないなら、笛を吹くのは私たちが。

2022.9.11

金曜日のメトロポリタン+面「私と新聞」の担当になってから、読者の方に本紙への意見や感想、活用方法を中心に、人生や近況などを聞いてきました。10年以上の購読者で、本紙への愛着を強く感じられる年配の方がほとんどです。

私の記者暦は34年になりますが、本紙に対する読者の声を、面と向かってじっくりと聞く経験はほとんどありませんでした。今まで

近所のスーパーで買い物に考えました。にんじんなどがいつもより高い。見ただ。朝刊1面の記事「見つ得な食材」(毎週金曜日)とおり、八月の天候不順のよう。にんじんサラダを献るのはやめて、代わりに記した安値のキャベツを選びました。食用油の値上げも



昨年の1.5〜2倍の価格で販売されているサラダ油(東京)

「黙殺」という導火線

時代を読む



自民党には十五の関係団体委員会があり、宗教関連は社会教育・宗教関係団体委員会が友好団体として認定している。神道政治連盟や立正佼成会などがあげられるが、旧統一教会関連は入っていない。その意味で「組織的な関係はない」との党の公式見解と一致するが、実態との齟齬

週のはじめに考える

祖国で 殺と絶望 優先する 11事件の

安倍